

1. 【目的】本報では、前報に引き続き父親のタイプによる父親の住空間への関わり方の特徴と家庭生活や家族への関わり方との関連をとらえることを目的とする。
2. 【調査方法】前報と同様である。
3. 【調査結果】前報と同様5つのタイプを設定した。住空間への関わり方にもタイプによって違いがみられ、「仕事一筋」「存在感が薄い」タイプの父親は、家庭内にテリトリーを持たず、逆に「家庭第一」「威厳」「自分第一」タイプの父親はテリトリーを確保している。テリトリーの内容にも違いがみられ、「家庭第一」「威厳」タイプの父親は公室中心であるのに対して、「自分第一」の父親は「専用個室」という私室中心であった。特に「自分第一」タイプの父親は、専用個室で趣味などを行うことが多く家族との関わりも少なくなっているが、家全体も自由に使えると感じており専用個室しか居場所がなくもっているといったものではない。「仕事一筋」「存在感が薄い」タイプの父親は、家庭内においてくつろげる場所が持てなかったり、自分の持ち物が少なかったり、置く場所がなかったりといった実態からもテリトリーを確保できていないといえる。また前報で述べた退職後まっすぐ家に帰らず、家族とのコミュニケーションがとれない「仕事一筋」「存在感が薄い」タイプの父親が、本報のテリトリーを確保できない父親のタイプと一致していることから、住空間への関わり方の違いは、前報で述べた父親の家庭生活や家族への関わり方の違いとも強い関連があるといえる。